

経営比較分析表（令和元年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	23	対象	ド透1未訓ガ	救臨が感へ災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	44,010	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
446	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
46	4	496
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
417	-	417

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成22 年度	- 年度	- 年度

Ⅰ 地域において担っている役割
公立置賜総合病院は、置賜二次保健医療圏の中核医療機関として高度・専門医療を提供するとともに、小児・周産期医療、精神医療等の専門医療を担い、災害拠点病院としての機能、臨床研修指定病院として研修医を育成する教育機能も有している。
また、置賜地域唯一の救命救急センターを併設し、救急医療を担っている。

Ⅱ 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「入院患者1人1日当たり収益」は微減となったが、「病床利用率」の増に伴い入院収益が増加し、「医療収支比率」は2.6ポイント改善、「経常収支比率」は3年ぶりに100%を上回った。なお、精神科を有するため、入院・外来ともに診療単価は他病院と比較すると低い状況にある。
収入増に伴い、「累積欠損金比率」は改善。「病床利用率」は、H29年度に行った病棟再編に伴い29床を休床していることから、実際の利用率より低い数値が計上されている。「職員給与費対医療収益比率」は収入増に伴い0.8ポイント改善している。

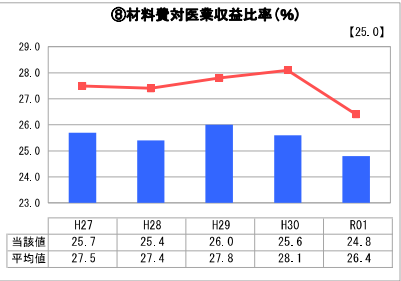
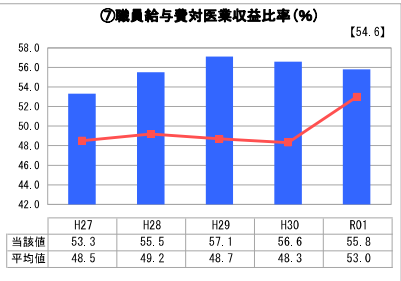
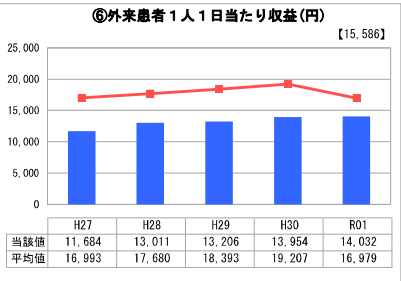
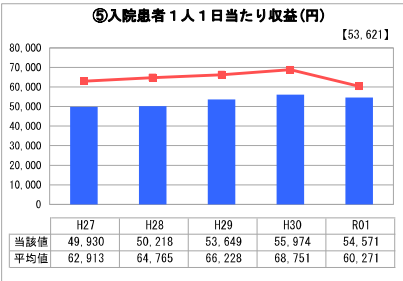
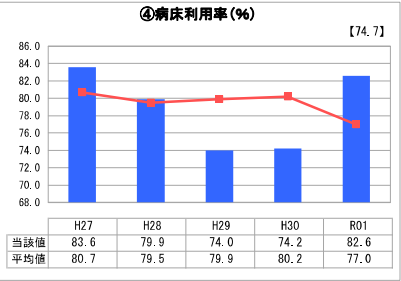
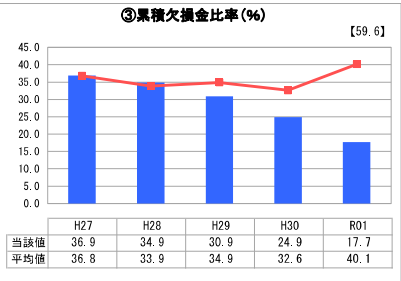
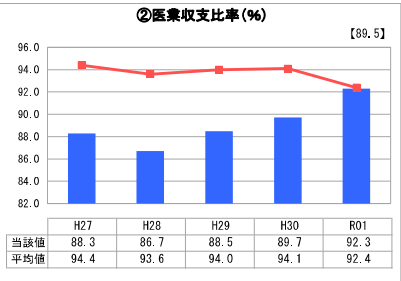
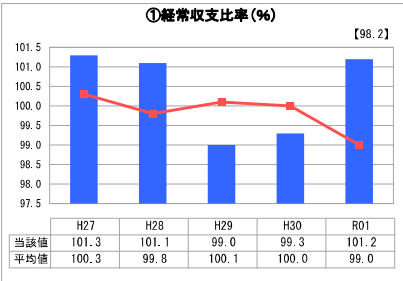
2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」は、前年度より2.0ポイント増加、平均値より12.2ポイント上回っており、平均より老朽化が進んでいる。
「器械備品減価償却率」は、前年度より5.4ポイント増加したが、平均値との差は3.5ポイントと大幅な乖離はなく、器械備品を計画的に更新している結果と思われる。
以上から、有形固定資産のうち、簡単に更新することができない「建物（施設・設備）」の老朽化が進んでいると見ることができ、今後は、設備更新や大規模改修などの更新費用が増加することが見込まれることから、施設・設備の計画的な改修修繕が必要である。

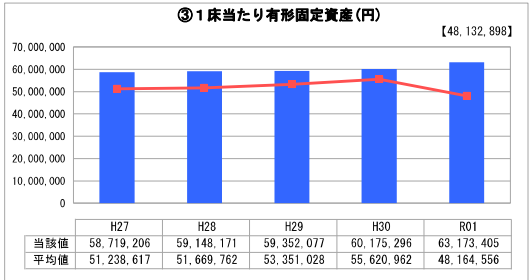
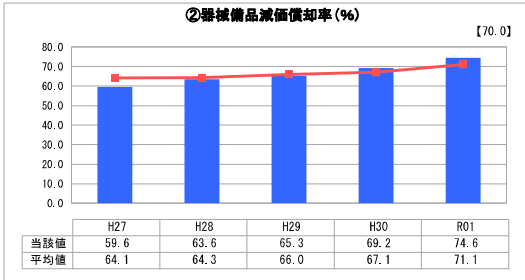
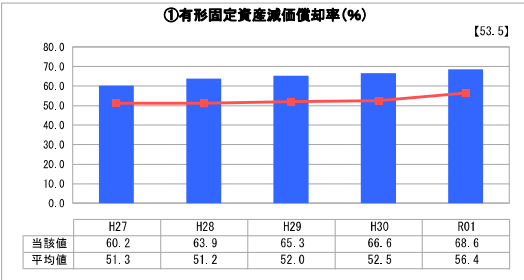
全体総括

地域医療構想を踏まえ、H29に病棟再編を行い、入院診療単価の向上を図ってきた。再編後2年を経過したR01年度は、高い病床利用率を達成したことで大きな増収となり、経常収支比率や医療収支比率など主要指標が改善している。しかし、職員給与費対医療収益比率はなお全国平均より高く、建物老朽化に伴う費用の増加も懸念される。
今後も人口減少に伴い患者数の減少が進むと予想されるため、「1人1日当たり収益（入院・外来）」を上げるとともに、医療費用の削減を図ることにより医療収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和元年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜長井病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	透 訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	16,247	第2種該当	1 5 : 1	

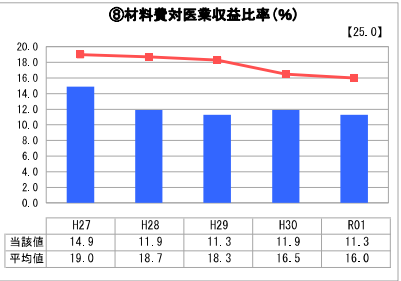
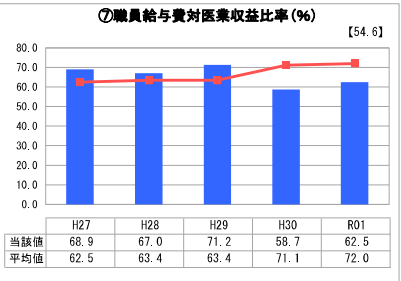
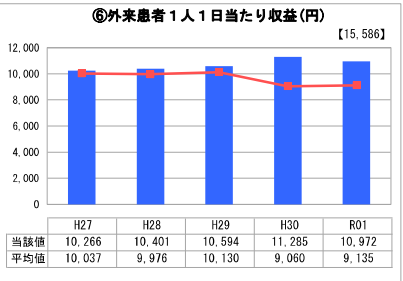
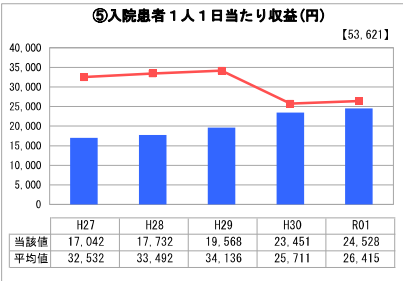
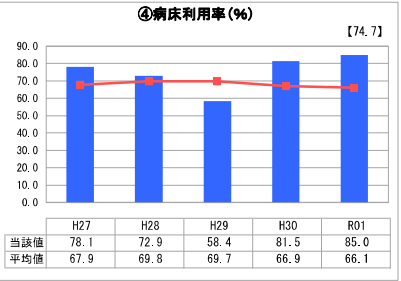
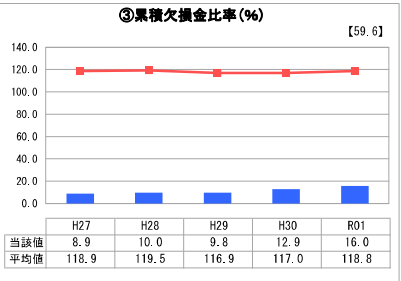
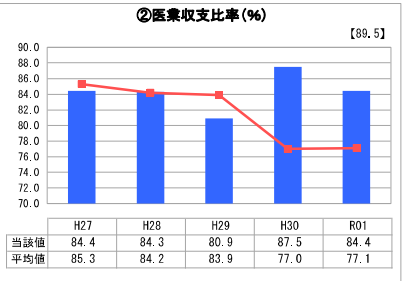
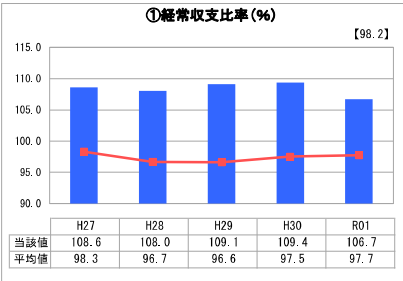
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

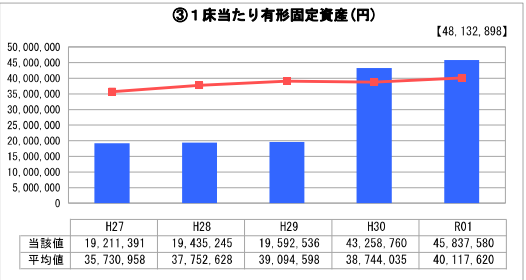
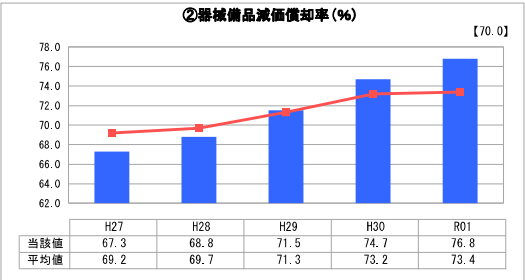
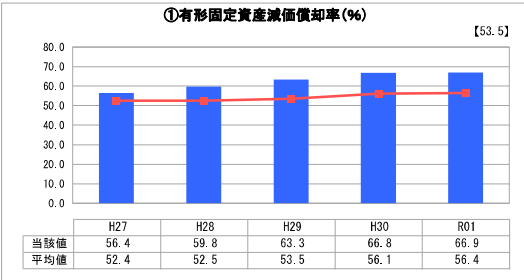
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
50	-	50

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成22 年度	- 年度	- 年度

Ⅰ 地域において担っている役割

公立置賜長井病院は、高度医療や救急医療を提供する公立置賜総合病院と密接な連携や相互補完を図りながら、より住民に身近なサテライト医療施設として初期医療や回復期医療を提供している。

また、『長井市地域包括支援センター長井病院支所』・『長井市訪問看護ステーション』・医師会による『地域在宅医療連携室』を院内に開設し、地域医療との連携に取り組んでいる。

Ⅱ 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「経常収支比率」は、平均値より9.0ポイント上回り100%以上を維持しているものの、前年度より2.7ポイント減少している。「医業収支比率」は、平均値よりも7.3ポイント上回っているものの、前年度より3.1ポイント減少している。

要因として、外来患者数の減に伴う医業収益の減、常勤医師及び病院改築に係る職員の増等に伴う職員給与費の増が挙げられる。「職員給与費対医業収益比率」も増加している。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」は、前年度より0.1ポイント増加し、平均値より10.5ポイント上回っている。

「器械備品減価償却率」は、前年度より2.1ポイント増加し、平均値より3.4ポイント上回っている。

平成12年度に既存病院を再編統合した際、既存財産をそのまま組合に移管したため、築50年を超える建物や法定耐用年数を大きく超える医療機器があるなど保有資産の老朽化が進んでいる。

全体総括

「経常収支比率」は引き続き100%を上回ることができた。一方、「医業収支比率」及び「職員給与費対医業収益比率」は、職員給与費の増によりいずれも昨年度より悪化した。

今後、特に外来患者数の減少が進むと予想されるため、引き続き医業収支を改善し、経営基盤の強化に努める必要がある。

病院建物の耐震性不足や老朽化等に伴う病院改築事業（ECI方式による工事）について、令和元年度に着工し、令和4年のオープンに向けて整備を進めている。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（令和元年度決算）

山形県置賜広域病院企業団 公立置賜南陽病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	訓	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	3,850	第2種該当	15：1	

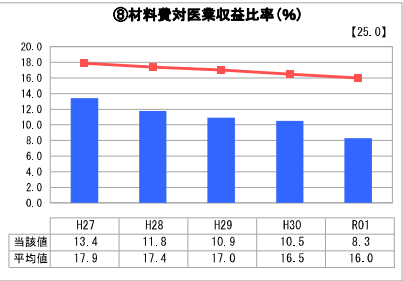
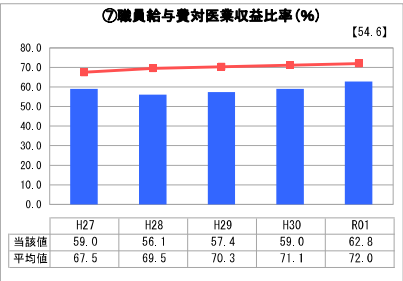
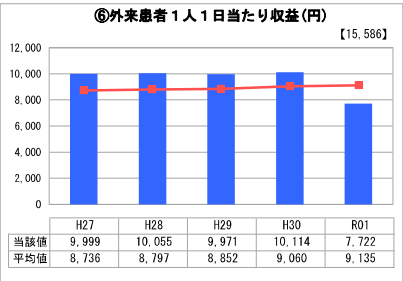
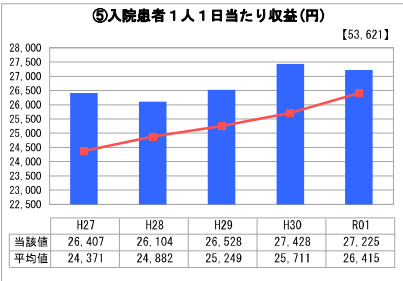
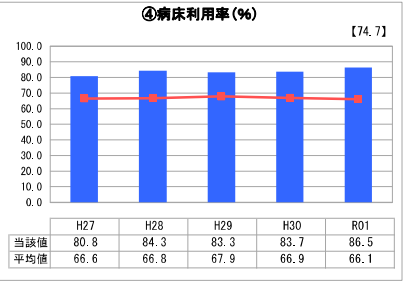
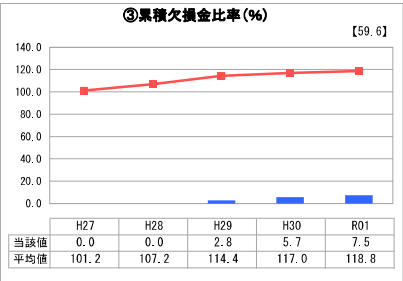
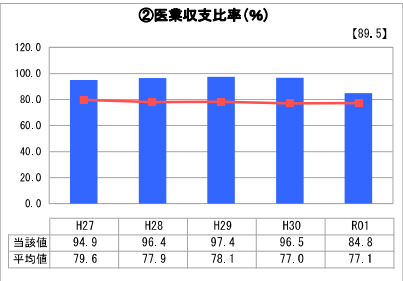
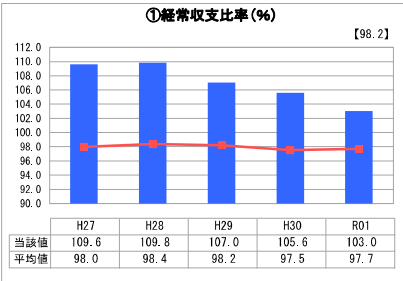
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

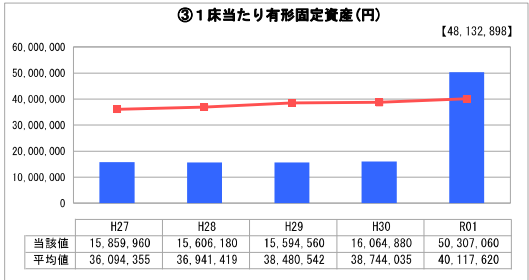
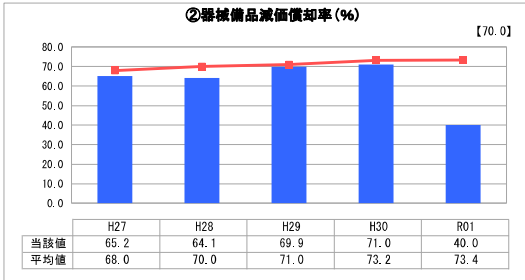
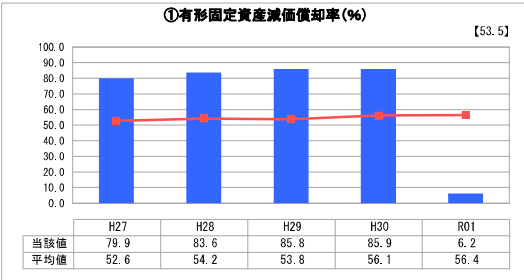
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
50	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	50
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般＋療養）
50	-	50

■ 当該病院値（当該値）
— 類似病院平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
平成22 年度	- 年度	- 年度

Ⅰ 地域において担っている役割

公立置賜南陽病院は、高度医療と救急医療を提供する公立置賜総合病院と密接な連携や相互補完を図りながら、より住民に身近なサテライト医療施設として、初期医療や回復期・慢性期医療の提供を行っている。

Ⅱ 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和元年度は、病院改築関連経費の増加、人工透析室の廃止に伴う外来収益の減等により「経常収支比率」「医業収支比率」ともに悪化した。「外来患者1人1日当たり収益」以外の経営指標は、平均以上の値を維持している。

2. 老朽化の状況について

全面改築を行い、令和元年6月から新病院において診療を開始した。
※新病院の構造：鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地上2階

全体総括

新病院は山形県地域医療構想や各種将来推計を踏まえ、総合病院との機能分化と連携、在宅医療の推進と連携強化を推進する医療施設として整備され、建物の耐震性能確保や患者の療養環境改善も図られた。

一方で、新病院改築事業に伴う減価償却費や関連経費の増加等により、医業収支比率の低下が見込まれる。企業償還に係る負担増も見込まれることから、更なる収入の確保・経費の削減に取り組んでいく。